

I 井伊谷小学校百年のあゆみ

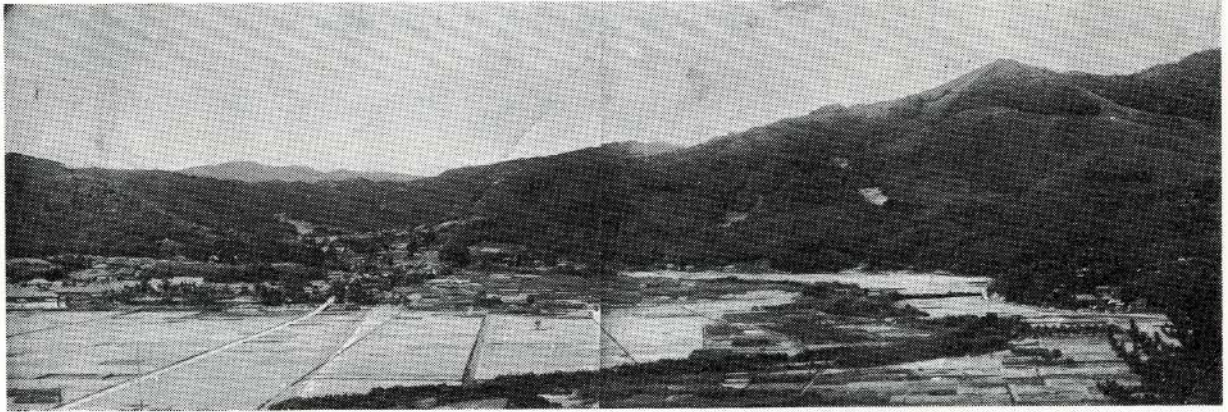


学校沿革史 明治44年7月1日



明治時代の教科書

1. 明治以前の時代
2. 明治時代
3. 大正時代
4. 昭和時代 (1)
5. 昭和時代 (2)



昭和初期井伊谷村風景

1. 明治以前の時代

私たちの住む井伊谷は、白岩や谷下の石灰岩地帯から獣や淡水魚の骨の化石が発見され、狩猟が主体であったことがわかる。原始人の時代約2万年も前から人が住んだと思われる。

各地から発見された石器、土器、そして上野、坂田正楽寺等には多くの古墳があったことから、縄文時代弥生式文化時代には、井伊谷川に沿って多くの人が住んだことがうかがわれる。

上野の馬場平古墳から出土した、鏡、勾玉など立派なもので、かなり勢力を持った豪族を埋葬したものと推定される。

(1) 南北朝時代の井伊谷

井伊谷は皇室領であって、日本八介の一と言われた井伊家十二代井伊遠江介道政の時、延元2年(1336)



江戸末、明治初期に使用された論語、孟子の書籍

春後醍醐天皇の皇子宗良親王がはじめて井伊谷に入り勤王の士を集め延元3年には井伊城を出立して吉野の行宮に入られた。その年の秋、宗良親王は軍を従え伊勢から東国に向ったが遠州灘で暴風にあつて白羽の浜に漂着、伊勢を出た時の船団は散り散りとなり、親王は再び井伊城に向われた。そして北朝に加わった今川氏の攻撃を受け苦戦の末井伊谷に入られた。井伊谷、奥山気賀、中川等の人々は親王に加勢し、三岳城を井伊家の本城とし東は大平城、西は三ヶ日の千頭峰城を築いて北朝軍に備えた。しかし翌延元4年7月、北朝軍は高師泰、高師兼、仁木義長等足利勢の大軍をもって井伊城めがけて押寄せ激しい攻防戦が行われ興国元年(1340)1月30日、三岳城遂に落城。宗良親王はその後各地を転戦御苦労されたが利あらず、最後の信州大河原も北朝軍の手が伸びたため、一旦は河内にのがれられたが安住の地なく、再びこの井伊谷に入れ、元中2年(1385)8月10日井伊城で逝去せられた。

これから後の井伊谷は、井伊家の勢力、地に落ち、他の部将の属領となり、徳川時代に移るまで約240年の永い間実に変転極らない乱世の時代をおくることとなった。

(2) 郷土と井伊谷気質

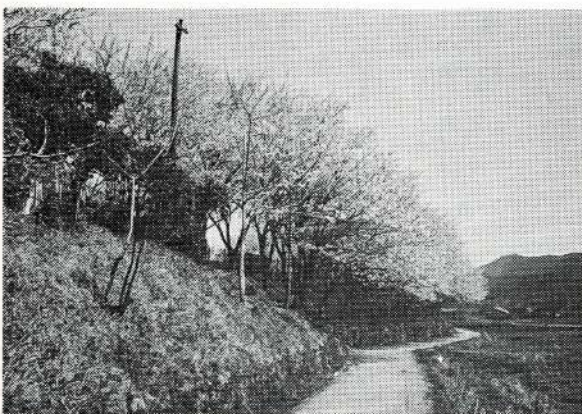
井伊家の歴史が井伊谷の歩んだ道をよく現している南北朝時代の次は、駿河の今川、甲斐の武田、尾張の織田等各国の勢力の接点となってしまった。

永正11年(1514)には尾張の斯波義達の配下であり今川氏の攻撃を受けて三岳城が落城、今川氏の配下となる。天文13年(1544)家老小野和泉守により直満、直義が切腹させられ、永録5年(1562)には小野但馬守により直親主従19人掛川で殺害共に家老小野親子共主君が織田、徳川と内通していると今川家へざん言した事件。また井伊直平は家老飯尾豊前守に毒殺される等悲惨な事件が相次いだ。しかし龍譚寺の南溪和尚によって一命を助けられた直政は後に家康に重く用いられ彦根の城主となった。(1601年)

このような時代が永く続き、井伊谷の人々は、たえず息を殺して様子を見るような風習が強くなったと思われる。

永禄11年(1568)徳川家康、今川氏を攻めて井伊谷に入ってより後、天下を取るまで井伊家の功績が大きかったことから、徳川時代300年は平穏が続き安定したが、進取の気性が薄れてしまったようである。

しかし幕末には神主を中心として国学を志す者が多く出て、神宮寺の山本金木氏等は遠州報国隊の中でも中心的役割を演じた。この頃はもう武士の力も地に落ちてようやく一般百姓、商人が力を得て学問をするようになった。今の学校の前身である寺小屋が盛んとなり、写真に見るような、論語とか孟子などの本によって勉学がなされ、やがて世も明治となり文明開花の第1歩が踏み出されることとなった。歴史は尊いが、私たち井伊谷人にはもっと進取の気概と根強さが必要ではなかろうか。



大正末期、桜は満開(学校の南堤)

大正末期の学校の桜

2. 明治時代

学制(関係要旨) 明治5年

全国ヲ大分シテ八大学区トシ 区毎大学一校ヲ置ク 大学区ヲ分ケ三十二中学区トシ 区毎中学一校ヲ置ク 中学ハコレヲ分チ上下二等トシ 下等中学ハ14才~16才 上等中学ハ17才~19才マデニ卒業セシムルコト

中学区ヲ分チテ二百十小学区トシ 区毎ニ一校置ク 小学ハコレヲ分チテ上下二等トシ下等小学ハ6~9才 上等小学ハ10~13才マデニ卒業セシムルコト

(1) 井伊谷小学校のあけぼの

小学校に残されている沿革史より、井伊谷小学校の成りたちを引用してみよう。

明治5年 学制発布せられ、本学区は第2大学区11番中学区第176番小学区に編入される。

明治6年10月

井伊谷村阿形井津治氏居宅を仮用、公立小学金指学校井伊谷分校と称す。当時の生徒20名、教員2名で発足する。

明治7年5月1日

井伊谷村円通寺を仮用する。

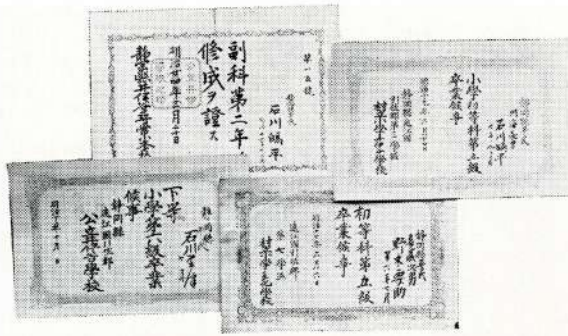
明治8年6月

村立小学井伊谷小学校と改称。独立を認可される。

学年	修身	読書	習字	算術	体操	通計	唱歌	図画
第一年度	二	九	六	六	五	三	三	三
第二年度	二	九	六	六	五	三	三	三
第三年度	二	九	六	六	五	三	三	三
第四年度	二	九	六	六	五	三	三	三
合計	八	三六	二四	二四	二〇	一二	一二	一二

尋常小学校課程表

学校の歴史を綴る沿革史



明治初期の証書類 遠江国引佐郡とかかれ
ている珍しい卒業証書

明治 9年4月

当時の生徒の授業料ひとり1か月平均1銭5厘を徴収する。

明治 13年3月

井伊谷村大手先に校舎2棟を新築し業を始む、生徒百余名。

明治 19年度より

小野村が学区内に編入される。(22年迄)

明治 22年1月

校舎1棟を増築する。

明治 22年4月1日

井伊谷村立井伊谷尋常小学校と称す。学区は井伊谷、三岳、花平、横尾、白岩とし、生徒400有余人となる。

明治24年3月7日

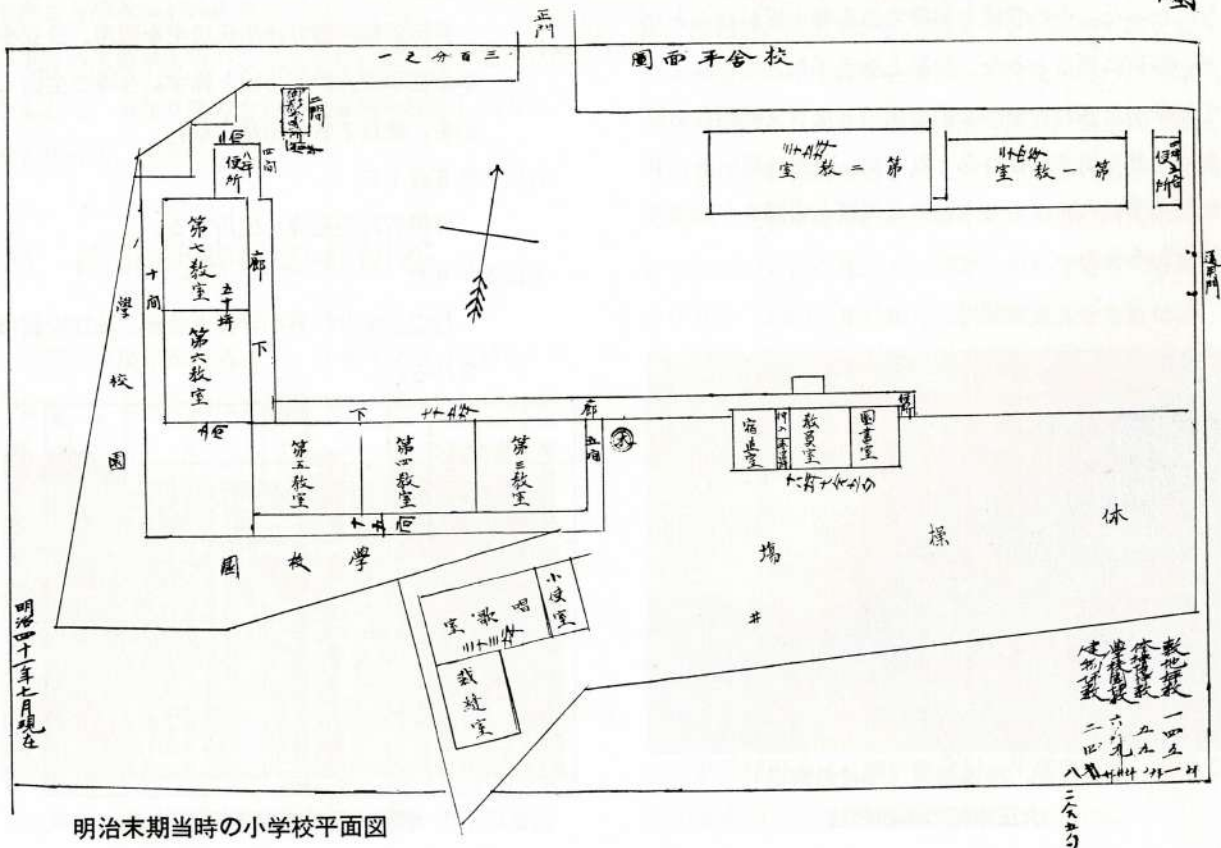
校舎1棟を改築、落成式挙行。

明治26年5月8日

本校体操場成る。



明治の重要事項を記した学校沿革誌



寺小屋教育と、さして変らぬ円通寺借用当時の小学校も、前図に見るように明治末期に及ぶと幾棟もの校舎を有する立派な近代学校の様相を呈するまでに発展した。この発展の推進力には言うまでもなく、井伊谷村役場当局の並々ならぬ努力があった。当時の学校建築は、費用のほとんど全額を村当局で負担せねばならなかった実情からも知ることができる。

(2) しつけを徹底した明治の気骨

明治時代の小学校教育には、しつけを重視したことが、いろいろな規程などにかがわれる。その例を挙げてみると、

——生徒心得左の通り相定む。明治16年1月——

1. 生徒たるものは修身を旨とし学業を専一にすべし。
1. 毎朝早く起きてうがいがいし父母に礼を為し食事前に上校の用意を為すべし。
1. 上校は授業十分前たるべし。
1. 始業の合図を聞き教場に入り書器を整頓すべし
1. 教場にあつては勉めて静肅にしその出入は殊に注意すべし。

——遊歩場禁制すべき行為 明治25年11月——

1. 角力及争闘に類する行為
 2. 他人を虚げまたは妨害する行為
 3. 賭博に類する遊戯
 4. こん棒を打ちふりまたは瓦石を投じる等
 6. 野ひにわたる風態行為
 7. 遊具を正当に使用せざるもの
 8. 教場または廊下にて遊ぶこと
 9. 遊歩場外へ出遊するもの
 10. 楽書を為すこと
- その他監督教員の否認する行為

このような規程があつて、違背したときはこれに罰則があつて、「1. 上校の停止 2. 教室内席順を下すこと 3. 時間を限り教室にとどめおき、短所の学科を復

習せしめ、その場合に教員はこれを監視し、父母もしくは後見人に通知する」というもので、校長または首席教員において処分することになっていた。教室内席順については、「教師の左方の後方を以て上席とす」と記されている。

— — — — —

包ノ持方

色ノ總ヲ左ノ脇ニ持ツル
但壺頓スルトキ右脇ニ持ツ
包ミラ背後ニ負フハ序支ナシ

衣服

衣服ノ質素ヲ旨トスル
衣服ノ清潔ニスル
男子ノ威儀ヲ簡社トスル
帯ハ石ノ紐ニハシ

しつけの規定はきびしい—沿革史より—

— — — — —

食事

食事前ノ相定ムル敬禮ヲナシ
食事時ノ雑話ヲ禁ム
箸持方ノ注意ニ不正ニシテ短兵
食物ノ分量ニ注意スル
食事後ノ整理左ノ語ヲナ
食事作法
衛生ノ注意
衣履ノ整頓
新聞紙ノ散見ニ必要ノ時等

教禮

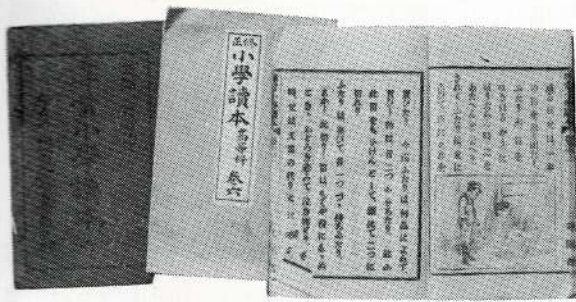
教師昇校時及下校時必敬禮スル
授業時始業時敬禮ヲ行フ
但授業時時間ノ満了時始業時敬禮スル
隣校教員後場自出後復返生徒敬禮スル
禮式ニ着帽ハ脱ス
上輩ニイテ相定ムル禮ヲナシ
學友相互ニ相定ムル禮ヲナシ
同進退下ニ行進スル

訓練要項

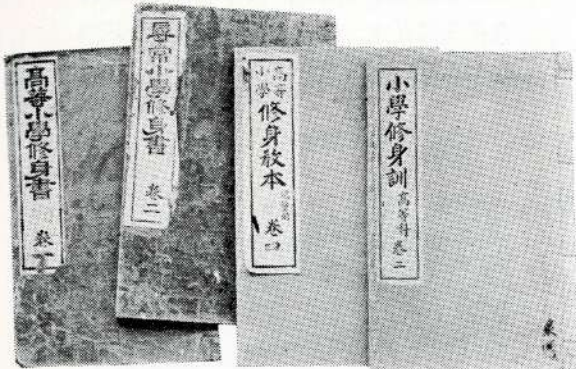
一 規律ヲ守ルベキト
二 服従スベキト
三 勤勞ヲタツトベキト
四 礼儀ヲ身ニシテ
五 清潔ニシテ
六 身體ヲ健全ニ保ツベキト
七 精神ヲ奮發シテ持ツベキト
八 公德ヲ重シクシテ
九 共同ヲ念スベキト
十 義務ヲ重シクシテ

明治25年4月

一 勅語ノ御趣意ヲ奉體スル事
一 忠孝ヲ勵ム事
誠しやうかき
愛しんせつ
勇げんき



明治時代の国語の教科書 内容はびっしり



明治の気骨を育てた修身教科書

(5) 明治の頃のエピソード

明治27年、日清戦争が勃発した。その頃の修学旅行の記事が残されているので、原文のまま載せる。

明治27年10月23日第4学年生徒旅行をなす。進行の人員33人、午前8時校旗を掲げて校門を出でて、引佐郡気賀町落合の橋下より船に乗じ、小流に棹い、所謂引佐細江に出て、山水の勝景を賞じつつ、海軍大勝の軍歌をうたい益々船を進めて遂に新居の駅に着し、ここに暫く上陸して、鉄道線路、鉄橋等の実物観察をなさしめ、またその説明を与う。あだかも好し、車声轟然竜形の黒煙を吐きつつ一列の汽車通ず。生徒歓呼惜く能はず。なお進んで新居の駅内を巡覧し船に帰りて、帰途につく。東北西の諸山は水を隔てて遙かに招き、鏡面の如き湖水は小波をあげて笑うに似たり。一同益々勇み或は古英雄の快事を談じ、或は壮快活発な軍歌をうたい、歓声湧くが如き間に気質に着す帰校は少しく夜に入りたり。(沿革史より)

きわめて明解に、当時の明治の美文調をもって、しかも沿革史には、誠に達筆をもって誌されている。当

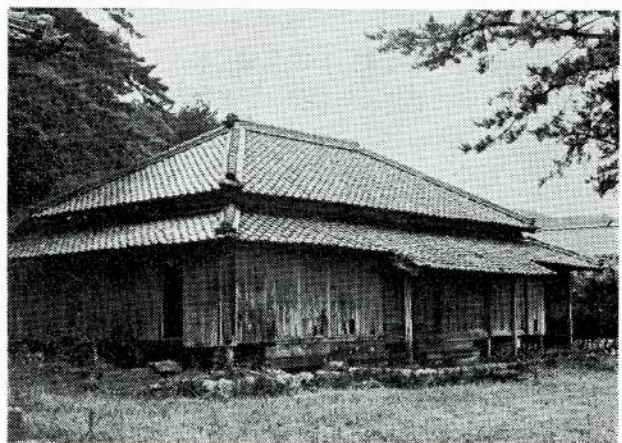
時の井伊谷小学校の気風が脈々と肌に感ずる思いがする貴重な記録である。

また、明治27年に入学した中井猪平氏(89才)は、こんな話をしてくれた。

“円通寺の寺小屋教育は、かや茸の大きなお堂の中で、先生が3人生徒は30人位であったと聞いているが私の小学校入学は明治27年で、生徒男女合せて20人位先生は石牧校長以下5人位だった。4学年制で、校舍はお寺風で2棟向いあって建ち、その中間が運動場であった。運動会には日の丸や万国旗が飾られ、主として競走と遊戯であった。学科は修身、読本、算術、習字、体操位のもので、雨の日は教室で遊び、雪の日には火鉢が3~4箇運びこまれ、それをとりまき雑談で時を過ごしたものである。遠足は三岳山や半僧坊へ行くのが例であった。服装は和服で、本は風呂敷に包み手に持つときは左脇にかかへ、あるいは背負ったもので、当時は成績簿などなかった。”

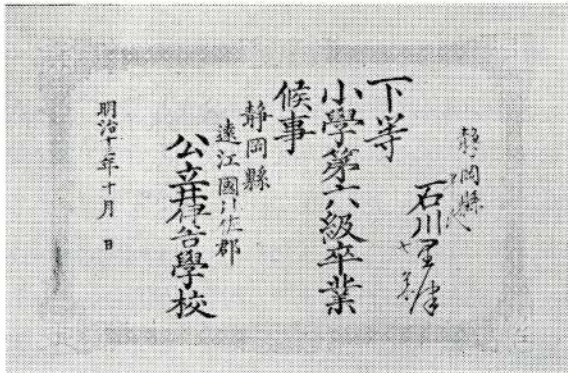


現在はひっそりとした円通寺跡であるが当時の面影が忍ばれる



当時の寺小屋式小学校は静かに残されている

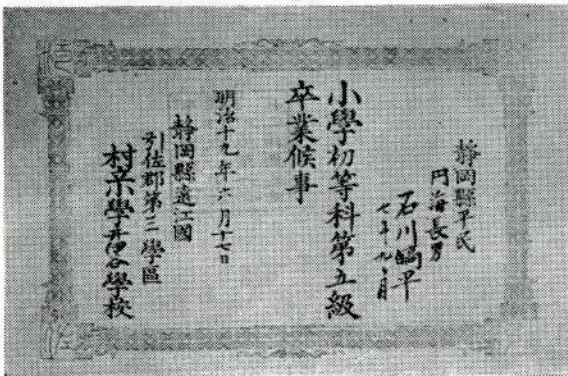
(6) 古き時代の卒業証書
 通告表



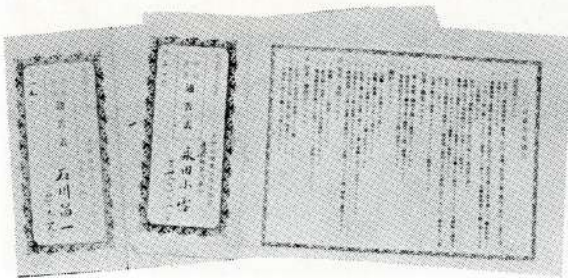
明治13年の6級卒業証書 遠江国井伊谷学校とある



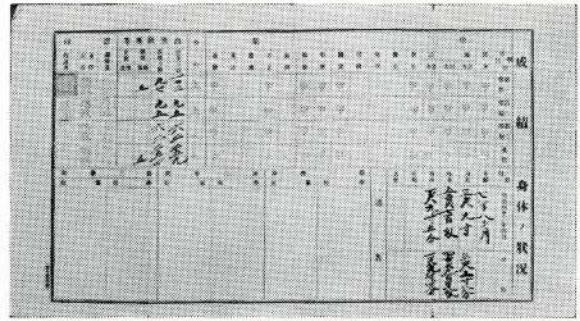
平民喜蔵次男野末要助当時6年7月とある



遠江国引佐郡第三学区村立小学校井伊谷学校とあり、明治10年代の珍しい卒業証書 但し現在で言う進級試験の合格証である



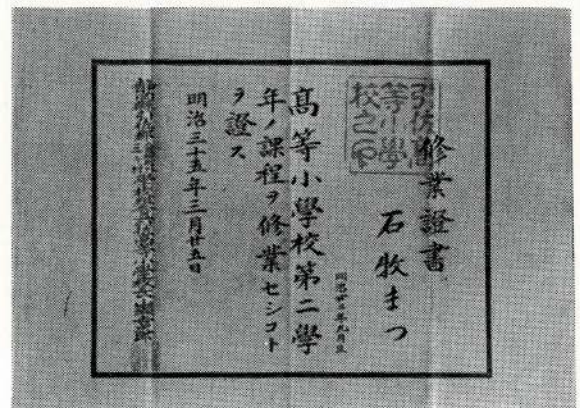
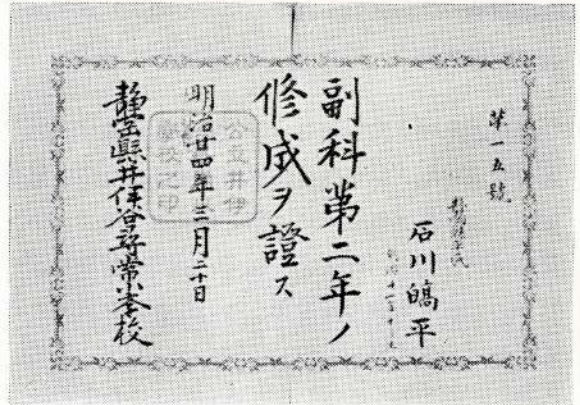
明治42年当時の珍しい通信簿



某氏の通信簿の内容、模範生全甲である身長三尺九寸、体重五貫七百匁の表現がなつかしい

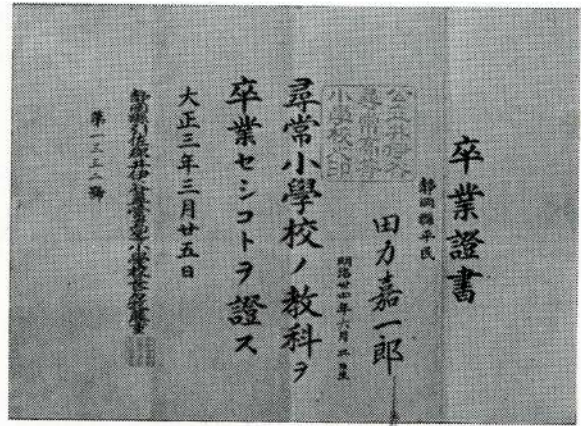
(7) 高等科も併設、充実発展
 の時代

下の写真のように、副科がおかれ、やがて明治35年4月に高等科が併設され、明治37年5月2日より農業補習学校を付設して充実発展の時代を迎えていくのである。



(8) 明治の井伊谷小を築いた 名校長石牧氏

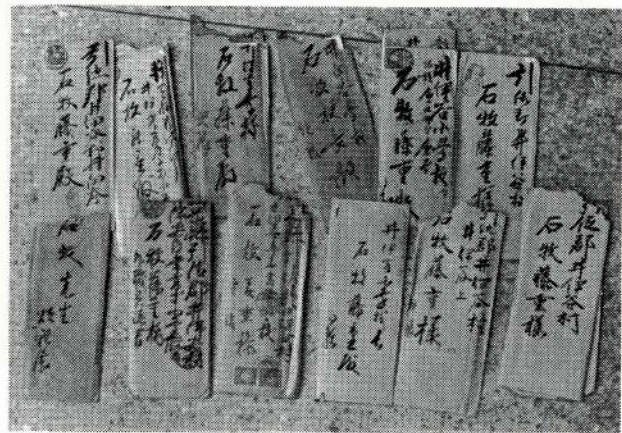
石牧藤重先生は、井伊谷小学校の校長として、実に22年間にわたって在任され多くの功績を残された名校長である。明治26年4月より大正3年3月までの井伊谷小学校の教育を双肩に、荷なってその重責を果たされた訳である。この間に、井伊谷小学校が近代小学校としての、外観を、そして内容の向上をもって名実共に郡下有数の小学校としての実績を示すに至ったのである。



大正3年石牧校長名のある卒業証書



第7代校長 石牧藤重氏

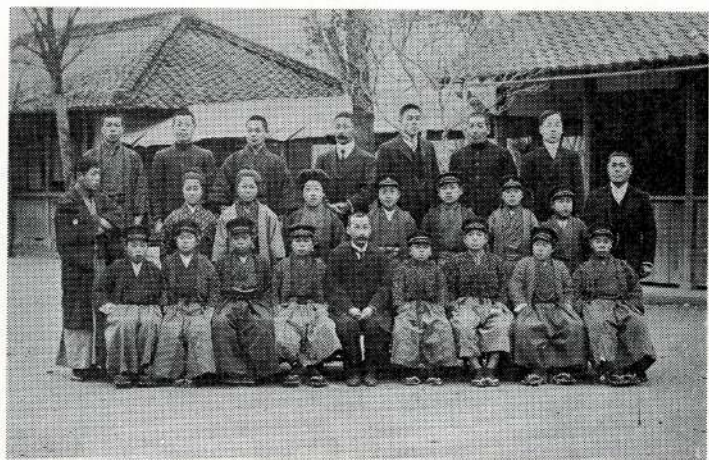


石牧校長あての当時の学校教育の内容を誌した貴重な手紙類

石牧藤重校長履歴

- 慶応2年5月20日 井伊谷村井伊谷8番地に出生
- 明治13年7月11日 井伊谷小学校授業生
- 明治22年6月28日 井伊谷小学校訓導となる
- 明治22年7月25日 学資金寄付の賞として木杯老筒を受く
- 明治28年3月29日 兼任井伊谷尋常小学校長

以来大正3年まで井伊谷小学校勤務 人生一代を本校のために尽された。



石牧校長を囲んでの記念写真（大正2年当時）

3. 大正時代

大正時代は、経済の発展とともに教育熱が向上した校舎の新築が行われ、教授法の研究が盛んになされ、新しい流れがふきこんだ。

これまでの臨画は自由画に、綴方は自由選題へと変わる。引佐文園が発行され、作文教育が盛んになった「ハタ タコ」の教科書は「ハナ ハト」に変わる。

井伊谷少年消防義勇園（消防隊）が結成され、猛烈な練習が行われた。

(1) 県知事賞の榮譽に輝く

大正2年3月31日

本校児童就学及び出席の督励が認められ
県知事從四位勲三等 笠井信一氏より褒
賞金を受く。

大正3年9月14日

郷社潤伊神社に於て宣戦奉告祭執行につ
き尋常五年以上の児童参拝す。

大正3年9月28日

出征兵士送別式を本校庭に於て挙行す
児童は見送りをなす。

大正6年11月28日

新築校舎の普請に着手す。

大正7年7月2日

校舎落成式、児童成績品陳列す。

静岡県引佐郡井伊谷尋常高等小学校

金百円

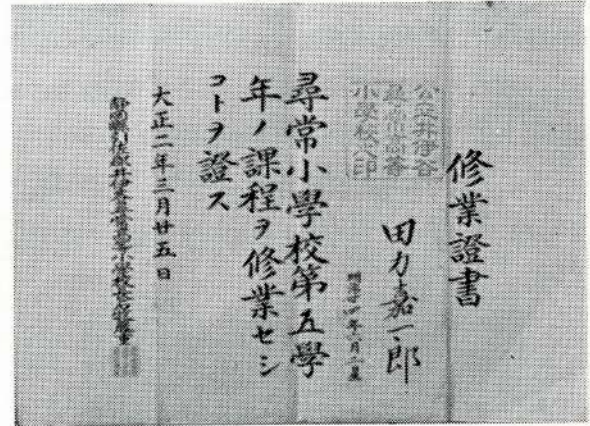
施設その宜しきを得教授訓育の成績見る
べきものあり 仍て頭書の金員を交付して
これを表彰す

大正9年2月11日

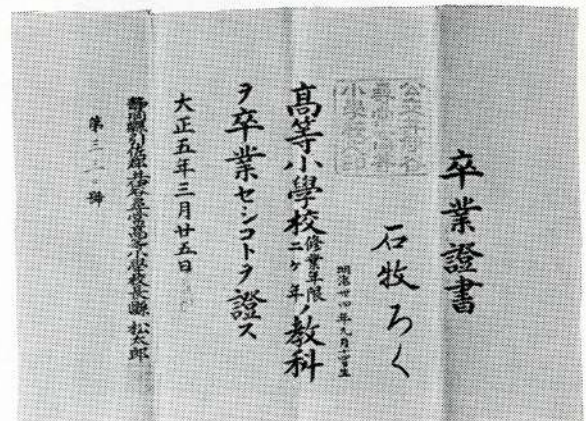
静岡県知事從四位勲三等 関屋貞三郎団

大正9年11月20日

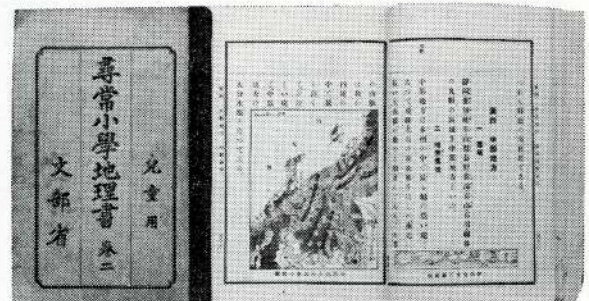
本校が表彰された記念事業として理科教室設備の為村内有志の寄付を乞う。総額四百二十八圓五十銭を得たり。本日寄付者を招待して茶菓を呈す。



大正時代の尋常科卒業証書（大正2年）



大正時代の高等科卒業証書（大正5年）



大正時代の地理教科書 5年生が使用
現在の社会科である



大正時代の校舎風景

(2) 学制頒布50周年祝賀式典 開かる

大正11年10月30日学制頒布50周年記念祝賀式挙行。

—— 当日の式次第 次の如し ——

1. 一同入場
1. 敬礼
1. 君が代
1. 勅語奉読
1. 勅語奉答の歌
1. 訓話
1. 来賓の話
1. 教育尊重の歌
1. 敬礼
1. 退場

この日児童の成績品の展覧と唱歌練習
会を行えり、

大正11年12月15日

学制頒布50周年を記念する事業として、児童文庫を設立せんとし児童保護者に寄付を請いたるに金壹百六拾九円貳拾五銭集まれり、本日図書を購入す。

大正12年 9月 1日

関東大震災

大正13年 6月21日

本郡下に疑似ペスト発生の旨通知あり、直ちに保護者に通知せり。

大正14年12月15日

尋五以上をもって井伊谷少年赤十字団を組織し本日発団式を挙ぐ。

大正15年 3月18日

本日より東運動場の 900余坪の拡張工事

大正15年12月 2日

児童出品農産物品評会開催。

大正15年12月25日

聖上陛下〔大正天皇〕午前1時25分崩御せられたり。

午前10時御影奉掲奏悼式を挙行せり。

(3) 大正時代のエピソードを ひろう

追想断片 山本太郎市

● 私たちは大正5年に井伊谷尋常高等小学校に入学、13年3月に卒業しました。卒業記念として桜を植樹しましたが、終戦直後校庭に立った時、下の段にその内3本が残っていました。樹枝病に最も弱いとされている桜の木が50年の風雪に耐え、後輩諸君の勉学に役立って「よい事業をしたなあ。」と思ったことが忘れられません。

花の心をいつまでも大切にしたいものだと思います

● 私は昭和6年頃ふるさとの小学校を思い出し、軍艦赤城より水兵さんの艦上生活の一日を漫画にした絵葉書を送りました。学校から非常に喜んだ返事をいただいたことが心に新たによみがえって来ます。

思い出の一駒一駒 中井正治（大正14）

● 一年生当初の遠足は奥山の田の草神社、白いズ

ック靴を履かされたはよいが、同級生からは「オー、オー。」と冷かされ通し、帰りはついに裸足で痛い思い出。当時はワラ草履が普通であった。

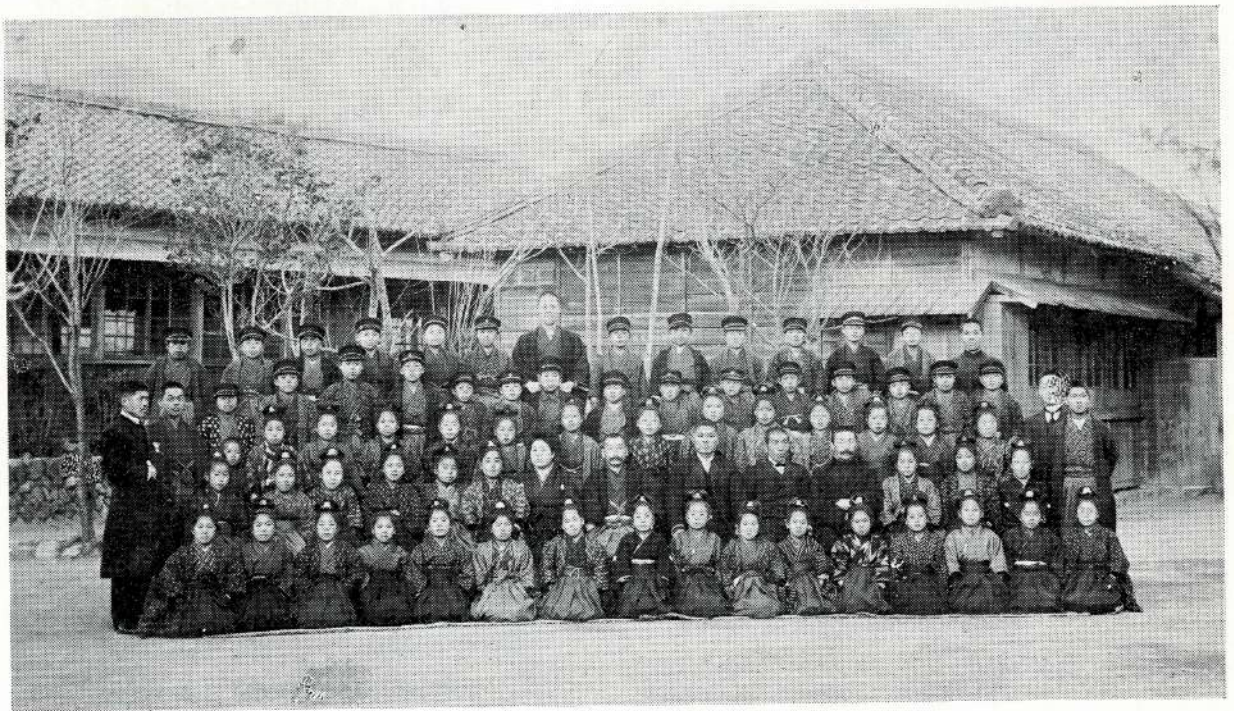
● 三教室ぶち抜きの式場で天長節の日、役場から村長、駐在所、議員さんが廊下伝いにゾロゾロ……と教育勅語を奉持した教頭さんがシズシズと……。正に

大正時代の井伊谷小学校鳥瞰図



開式前の緊張の一瞬「ブーッ！」と異様な一音あり、忽ち「ガヤガヤ、シーッ！」。怪音の主はクラスのN君。以来「TOME尻を洩らいた！」のあだ名と共に学校の名物男誕生。

● 6区の正泉寺には、当時恵まれない子弟を収容する育児院があった。クラスにも男女2名が……凍りつく冬の日々、木片のような下駄を、シモヤケの傷の



大正3年3月尋常科卒業生

血で赤く染めていた毎日……O君。頭から顔一面お面の
のようなオデキで苦しんでいたHさん……。何れも暗
い時代のたまらない思い出。

●「俺たちには花は見られないなあー」と新運動場
に植えられた吉野桜への注水はバケツリレー。暑い夏
の日の卒業の年の思い出。

少年義勇団（消防隊）の思い出 杉山光雄

「右向け——右。」「前へ——進め。」「中隊——
とまれ。」“井伊谷とうも”へ向って放課後の号令練
習。声が出なくなって、のどがいたくて、それでも続
けた北風のはげしい冬の日の苦しい思い出がたまらな
くなつかしく思い出される。

4. 昭和時代（1）

金融恐慌ではじまった昭和の夜明けは暗かった。深
い不況の穴におちこんだ日本の社会の状況を打破する
ため、ある者はテロに走り昭和維新のクーデターを企
てた。こうした動きの中に天皇を中心とする軍部の抬
頭が年ごとに強まっていった。そして満州事変、日支
事変とさらに第二次世界大戦へと進み、敗戦まで軍国
主義独裁の中で民衆は人間としての自由を束縛された
教育も国家主義、軍国主義の教育が強制され、ひたす
ら皇国のために自己犠牲を払うことが美德として教え
られた。

(1) 腰骨をのぼす学校教育

昭 11.5.18 職員会を開催し、馬淵校長より左記事項
の実現を希望せり

一、無命学校の実現

二、静坐 (一)全校第一時初め五分間なす
こと。

(二)各学年高二より尋三まで予
習時になすこと。

三、黙想 朝会、校長訓辞中なすこと。

昭12.10.13 国民精神総動員強調週間第一日克己日と
なす。

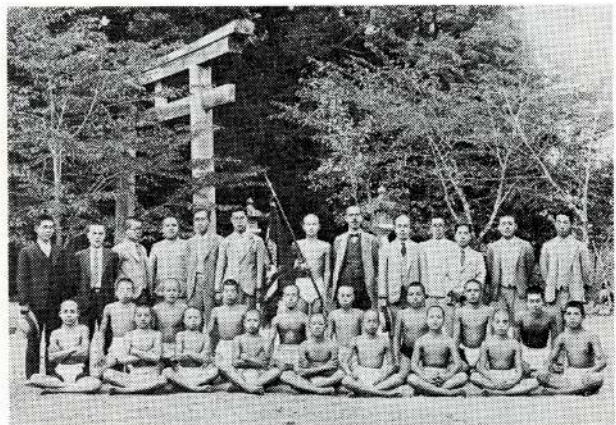
昭 14.1.10 剣道寒稽古を始め、一か月間なす。

昭 14.3.24 尋四以上児童職員にて薪負いをし、金八
拾五円六拾五銭を得る。

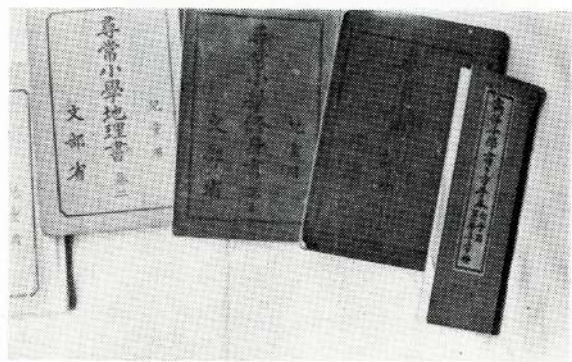
昭 14.8.1 本日より23日まで心身鍛錬をなす。

昭15.11.11 紀元二千六百年記念行事として、城山保
存の事業をすすめるため、第一時全校山
頂にて挙式をなす。

昭19.10.24 校内音楽錬成大会を開く。



昭和11年秋相撲大会に優勝す

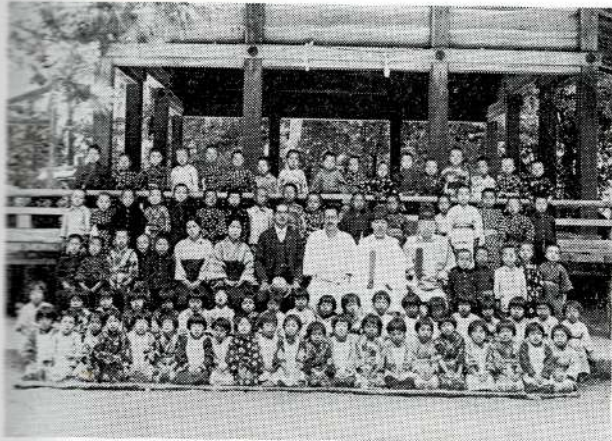


黒表紙の初期の教科書

「ハナ ハト マメ マス ミノ カサ カラカサ」
ではじまる国定教科書「国語読本」が「サイタ サイ
タ サクラガ サイタ ススメ ススメ ヘイタイ
ススメ」に代ったのが1933年（昭和8年）

満州事変がはじまり、次第に色濃くなる戦時色の中
で武士道精神が義務教育の中に取り入れられた。

「テンノウヘイカハ ツネニ シンミンヲ 子ノヤ
ウニ オイツクシミニ ナツテ イラツジャイマス。」
と二学年の「修身」の教科書には、「臣民の道」が強



昭和10年5月10日入学児童報告祭を井伊谷宮にて行なう



井伊谷宮社殿

井伊谷宮の御祭神は、後醍醐天皇の第四皇子宗良親王である。

宗良親王年譜

- 1311 御誕生
- 1330 (19才) 比叡山延暦寺の天台座主に任ぜらる。
- 1331 (20才) 唐崎浜の合戦笠置城落ちて捕えらる。
- 1332 (21才) 讃岐に流さる。
- 1333 (22才) 讃岐より帰り再び天台座主となられる。
- 1335 (24才) 御還俗宗良親王と改め伊勢へ赴く
- 1336 (25才) 遠江井伊城に入る。
- 1339 (28才) 賊軍井伊城を攻める。
- 1340 (29才) 井伊城落ち大平城に移る。続いて大平城落ち脱出する。駿河安倍城

を経て信濃の国に入る。

1341 (30才) 越後、越中、信濃、駿河に御住居する。

1350 (39才)

1352 (41才) 武蔵小手差が原に合戦する。

1353 (42才) これより10余年越後乙面、宇加地城等各地で転戦、漂浪され最後に大河原城に御住居する。

1371 (60才) 元選王方広寺を開基さる。

1374 (63才) 信濃より吉野行宮に赴かる。

1378 (67才) 井伊谷城に御住居になる。

1385 (73才) 8月10日井伊谷城にて薨去さる。

宗良親王

一、元弘の年官軍の
みいくさ破れたらちねの
父の帝やはらからと
遠き境に遷されて
侘び住ませたり詫間浦風
三、賊の大軍引き受けて
立籠りたる井伊の城
帝のかくれまじませば
時雨の空のみみぢ葉ど
落ち行かせたり越路信濃路
三、小手指原の原頭に
馬上豊に鉦執りて
謡い給わく君の為
世の為何か惜しからむ
捨てて甲斐ある命なりせば

(4) 思い出の行事をひろう

昭2. 11. 19 研究発表会を郡教育会の囑託を受け当校内に於て「郷土を中心とした教科の研究」の発表をなす。



県官来席にて研究会がしばしば開催される

3. 10. 28 引佐農学校主催郡下小学校児童競技会に

参加し高等科優勝す。

4. 9. 27 次の通り秋季研修旅行を挙す。高等科
静岡清水方面（1泊）尋5. 6年舞阪方面
尋3. 4年館山寺方面尋1. 2年奥山方面
6. 2. 14 郡教育会主催郡下小学校珠算競技会挙行
9. 3. 25 高2男自転車旅行をなす。引卒者豊田訓
導。
11. 6. 5 午後1時より裁縫室にて教育座談会をな
す。出席者前島村長、永田助役、石川学
事主任、外数名と本校全職員。
14. 10. 10 開校記念日を祝す。
15. 12. 25 高2男子41名浜師時習寮にて宿泊修養会
に参加する。二泊三日なり。
18. 11. 6 学校に電話設置、金指局63番なり
19. 1. 8 第3学期始業式、大詔奉読式を行う。同
日供出品の俵装をなす。
どんぐり 25俵 茶の実 2俵
19. 4. 30 後藤文夫国務大臣井伊谷宮参拝、高等科
児童お出迎えをなす。
19. 8. 27 西遠地方事務所鳥山学務課長臨場の下に
疎開児童歓迎式を午後3時より東運動場
にて開催す。式後馬鈴薯を蒸して接待す



昭和8年郡陸上競技大会優勝記念

(5) 戦争への道そして敗戦

—戦時下の教育—

満州事変から戦火は拡大されていった。原爆、敗戦
までの15年間は、日本にとって暗く長い道だった。

- 〔昭2. 3～ 金融恐慌おきる〕
〔昭3. 2. 20 第1回普通選挙行われる。〕
〔昭6. 9. 18 満州事変勃発〕
- 昭7. 3. 10 戦勝記念につき陸上運動会開催（校庭）
- 昭7. 12. 15 満州事変並に上海事変記念品展覧会気賀
校に於て開催す。尋四以上児童引卒して
参観
- 昭8. 4. 13 少年義勇団入団式挙行
- 昭9. 5. 30 東郷元帥死去の報に接し職員児童東方を
向いて弔意を表す。
- 昭9. 12. 15 本日より奉安殿への最敬礼をラッパの合
図により挙行することとす。
- 昭12. 5. 11 午前11時本村出身満州事変出動者への勲
章伝達式を校庭にて挙行し職員参列す。
〔昭12. 7. 7 蘆溝橋で日本軍と中国軍衝突、戦火は
中国大陸へ拡大される〕
- 昭12. 7. 17 出征兵士の見送りをなす（全校児童全児
童全職員）



昭和12年10月30日出征遺家族慰安運動会

- 昭12. 11. 1 放課後職員にて慰問袋60個製作する。
薬草取 栗拾い 古本古屑により代金とす。
- 昭12. 12. 14 南京陥落祝賀のため、祝賀式、旗行列、提灯行列をなす。
- 昭13. 2. 1 出征軍人遺家族慰安学芸会展覧会開催。女子青年団員売店を開き出征軍人遺家族を招待し、純益を出征軍人慰問金とす。
- 昭13. 5. 4 職員室を武道場となす。



新野治氏北支の山奥にて井伊谷小児童の長い慰問文を受け取る。右から三人め新野部隊長

- 昭14. 3. 24 尋四以上薪負いをし、金八拾五円六拾五銭を得る。
5. 27 海軍記念日挙式後三岳山にて奥山校と相撲大会をなす。
- (昭14. 9. 3 第二次世界大戦勃発)
- 昭14. 9. 8 「青少年学徒ニ賜リタル勅語」伝達式のため馬淵校長静岡県庁へ出張参列す。奉戴式を井伊谷駅にてなし、後奉読式を校庭にてなす。
- 昭16. 2. 26 浜松陸軍病院慰問のため児童を引卒す。
(昭16. 12. 8 真珠湾攻撃、米英に対し宣戦布告)
- 昭17. 4. 18 軍隊へ供出のためワラビ採取、三岳山に登る。たまたま空襲警報発令さる。急ぎ児童引卒帰校す。
- 昭17. 12. 16 軍人後援研究会を行う。鈴木軍事厚生課長来校す。
- 昭18. 8. 27 名古屋第三師団長賀陽宮殿下井伊谷村の外二か村に、関点呼のため御視察お成り

遊ばさる。教頭拝謁、足立校長に弔慰金下賜される。



昭18. 8. 27賀陽宮殿下井伊谷小へお成り

- 昭20. 2. 21 中部第三百十部隊新校舎転用
- 昭20. 4. 14 東京都長谷戸校児童再疎開につき送別式
- 昭20. 4. 16 本日より二部授業を始む午前中4年生以下、午後5年以上とす、高等科は朝より増産作業とす。
- 昭20. 8. 11 国民学校学徒隊結成。分散学級編成完了
(昭20. 8. 15 大東戦争終結の詔書天皇放送終戦となる)

女教師の思い出

前 嶋 照 子

私は昭和八年より二十二年春までの十四年間、五代の校長先生の下で過ごさせて戴きました。悲痛な思い出ほほえましい思い出等、百周年の七分の一の年代の姿を振り返って拙ない文で書いて見たいと思います。

昭和八、九年の頃は日支事変へと進展する時代だけに、学校教育の中心も、皇道教育、神社中心の教育であり、忠君愛国への思想鼓舞の時代でした。国旗掲揚塔が新しく建てられ、毎朝ラッパを合図に、奉安殿並びに国旗に対して、最敬礼が行われました。毎日毎日が真剣そのもので、何の疑いも持たず一すじにこの道に打込んだものでした。

当時建武中興六百年祭が行われるに当り、時の鈴木定一校長は、郷土に即した教育をとの御見解から、井

伊谷宮を中心にした教育研究会が行われました。安岡先生をはじめ、斯道の大家達が羽織袴の威儀も正しく大勢来校なされ、徹底した教育のあり方を大変賞讃下されたものでした。また当時は、宗良親王の御徳を讃え奉る為、毎月御命日には井伊谷宮清掃奉仕並びに、宗良親王の御歌を奉唱して、君の為世の為何か一のお歌に感激の涙を新にしたものでした。

また当時の体操はまるで軍事教練そのままの有様で児童の姿勢も正しく、ピリピリと一糸乱れぬ態度であったと思います。

静坐の教育へ

昭和十一年頃馬淵校長が跡を嗣がれ、あごひげを長く伸ばした風格は、一児童から山羊とあだ名されたのも愉快的思い出の一つです。その先生は大和魂の根本は座禅よりと大変禅を尊重され、奥山方広寺管長様とは非常に懇意な交際をなさいました。その禅より静坐の教育へ一腹を造る教育へと変わったのです。朝の自習時は、静坐による訓練から始まりました。なかなか児童にとっては、じっと眼をつむって静かに考え込むことは、むずかしいものです。薄く眼をあけてあたりを見廻したり、くすくす笑ったりするためよく注意したものです。でもこの静坐のお蔭で、師範学校教生の参観も行われ異彩ある教育成果があげられました。静坐教育を受けた児童たちは、成人された今、腹の坐った大人物になっていられることでしょう。

勤労奉仕や千人針奉仕

昭和十二年頃より支那事変が激しくなるにつれ出征軍人の見送り、及びその留守家庭への勤労奉仕、また勤労作業の薪背負い炭運び等、勉強以外の仕事がいっぱいでした。女子も出征者への千人針の作製で、放課後遅くまで何枚もの腹巻に一針一針心を込めて精出したものです。「日本人一人はアジャ民族七人の指導者だ。」を合言葉に、出征軍人への慰問文や慰問袋の作製等々夜を日についで目まぐるしさでした。

何と言っても体力の増進に重点が置かれ、剣道や角

力をはじめとし、女子は薙刀の稽古に邁進し立派な身体への訓練に意が注がれました。

足立校長の思い出

大東亜戦争の激しくなった十八年八月始め名古屋第三師団長賀陽宮殿下簡閲点呼御視察にお成りの運びとなるにつき、会場が井伊谷小学校にあてられました役場当局は勿論の事、会場となる学校側もその準備で大童となり、夏休みを返上して清掃準備に励んだものです。宮様の御台臨とあっては万全を期するは当然であり、したがって学校への要求も極めて厳しいものがあったと記憶しています。高い台に登って天井の清掃やら、隅から隅まで余す所なく磨き上げたものでした。点呼の会場は白布で覆い教壇等全部真新しい白布を包み全く清浄そのものでした。その教壇の上に宮様がお運びになられるのです。外のお歩きの場所には玉砂利を敷き詰めこれで皆ホットした次第でした。後四日程に迫った夕方漸く準備完了に漕ぎつけました。足立先生も教員住宅に泊らず、その夕方は大平の自宅に帰られ休養をなされたのでしょう。常に冷静で決してガミガミ言われず、顔にも出しませんでしたが、この事については可成り心を痛められたものとお察し致しておりました。然し次の日忽然と先生の急逝の報に接し職員及び児童の驚きと嘆きは筆舌に尽せませんでした。三日後に迫った点呼の重大さで夢の様に日が過ぎ去りました。遠い大平の自宅葬には代表者だけの参列にて、悲しいお別れとなりました。

疎開児童の転出入激増

浜松市の大空襲以来疎開児童が一時にふえ、千人以上の大世帯にふくれ上りました。組によっては入り切れずガラス戸をはずし内廊下にまで机を出して、学習した困難な時代もありました。

5. 昭和時代（2）

日本始まって以来の変革であった戦後は、学校も180度の方向転換を余儀なくされた。

しかし、学校側はもちろん、町当局も父兄の方々も子供のためにと数年にして前向きに進み出した井伊谷小学校は、現在見られるように進展していった。

この間、いろいろな面において、泣きも笑いもあったでしょう。それらを含めて、出来事や経過を通して思い出してみよう。

(1) 占領下の教育

—新教育実施—

① どんなかたちで

新しい教育だという進駐軍の命令で、今まで使っていた教科書はやめになり、間に合わせのパンフレットのような印刷物を教科書にしたり、あれやこれや…と知っているうちにやがて色刷の絵の教科書が生れた。

21年2月20日、御真影は学校には不要であるというので県へ返還された。

先生も、いろいろな研究会や講習会で、新教育の勉強に取り組まなければならなかった。

② 進駐軍が検閲にきた。

21年1月26日、ホール軍曹外1名が通訳をつれて

きてペラペラとしゃべった。古い教科書を集めてある物置の検閲だった。

23年6月15日、静岡軍政部教育課長ホーナー氏が学校の教育状況を視察に来た。

③ 中学校ができて、

昭和22年、6・3制で高等科は廃止、国民学校から井伊谷小学校と変わり、6年からは中学へ入ることになった。この年、高二卒業者は中学3年へ、高一の者は2年へ編入というように、生徒はできたけれども校舎がない。24年6月まで小学校の一部を借用しての共同生活、7月1日に小学校とのお別れ式があった。

④ PTAの誕生

すべてアメリカ式にというので、どこの学校でも生れたのが父母と先生の会。22年7月28日小中合同で結成総会が開かれた。その頃から数年の間、PTAのバザーが盛大に行われ、楽しんだり苦労したりさまざまであった。

PTAの在り方は—というので、PTAの研究会が各地であり、役員になった方々は嬉しがったり迷惑だったりであった。

⑤ 便所掃除の中止

昭和22年5月16日連合軍の通牒により、保健上便所の清掃は子供にやらせてはいけないということになり、これまでのいやな便所掃除が助かった。

⑥ 子供の伸び

何でも上からのいいつけ通りにするのがよいとされていた戦時中から、新しく脱皮した教育の中で、



平和時代にそった戦後の教科書



盛上る意見学校児童会

子供たちは学級自治会や学校児童会を通して、自分の考えやみんなの考えを話し合い、実行する姿に変わっていった。

(2) スポーツできたえる井小 教育

新教育によるてんやわんやの中で、子供たちに、どこころんでも間違いのない体育に力を入れようというので、スポーツを奨励した。奉仕作業のようなことに追われてきた子供も大人も、明るく楽しいこの運動にとびついてきた。

◆ 引佐郡大会も復活され、みんな張切った。

昭和22年秋には、郡でさだめた三つの部門（野球ソフトボール、女子のドッチボール）の優勝を井伊谷小学校が全部を占めるという好成績。

その後、ドッチボールはやめになり、男子は野球女子はソフトボールと続いた。それからの成績をみると（郡大会）

ソフトボール 23年 優勝 24年 準優勝
31年 優勝

野 球 32年 優勝 35年 優勝
なお、町内大会においては、井伊谷小の右に出るものは、めったになかった。

◆ その頃の思い出を二、三ひろってみよう。

①戦後、野球の草分け時代、広瀬、伊藤の若い先生この後に野沢隆先生などからしぼられた人たち、思い出してみてください。

どこでも聞えたあの大きな声の広瀬先生の滝のような汗など……。

②あつい練習の中で、福月へ走って買ってきたアイスクャンデーのうまさ。残った棒をいつまでもなめていたのは誰だったかな、やがて棒のないアイスマックに変わり、誰もが小豆のをほしがった。

③大きなヒットや、エラーで飛びこんだ安間さんの畑へ、ボールをさがしに入った者がなかなか出てこない……、ボールをそばにおいて盛んに食べているのは畑のいちご。ボールの見つからない時

がよくあったものだ。

④手首のスナップをきかせようと考えついたのがお風呂戦術……お湯の中で手首をきかせると、水の抵抗で早く振れない。しかしこれがとてもよくきくというので、ドッジボールの女子選手はお風呂の中まで練習に具えていたという。

(3) 思い出の行事をひろう

◎どんなことが……。

各人それぞれに思い出はちがうこともあろうが、戦後に卒業した方の記憶に残るようなものをひろってみよう。

国民学校から小学校へ名称が変わるので、帽子の徽章も新しくというので23年7月6日制定された。式場教室といえば、



昭和23年度制定

昭和30年頃までの人にはわかるブチヌキの校舎、そこを会場として行った学芸会。全部の父兄が入れないので、区を分けて二日間やった。演台が高くて手を上げると天井へつきそうなステージだった。

運動会といえば、昭和25～27年頃、小中合同でやったのを思い出すでしょう。数回しかなかったようだが、いつでも小学校の演技の方を楽しんで見る人が多かった。

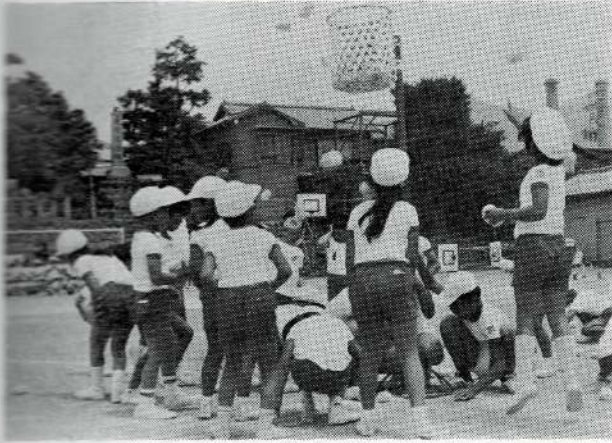
6年の卒業旅行は静岡、清水へ主として出かけ名古屋にも出かけた。日本平の景色や東山動物園の思い出など、たいせつにしよう。

◎D D T

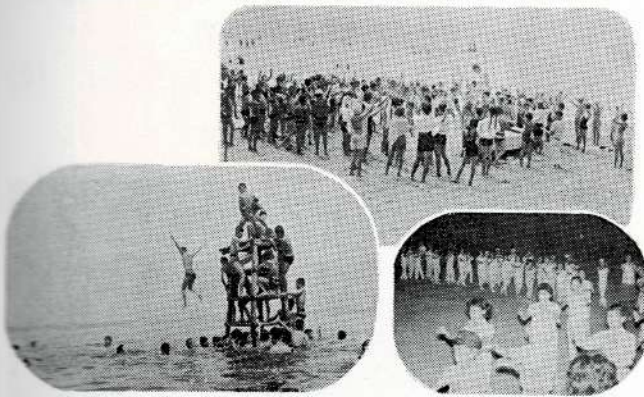
進駐軍は日本の衛生状態の悪いのを極度にきらった。蚤やしらみを一扫せよというので、DDTの粉末をかけられた。小学校の子供も例外でなく、22年5月17日井伊谷小学校にも、最初の白い粉が舞上った。

◎遠 足

昔も今も楽しいのは遠足、戦時中のお握りから次



赤勝て白勝て



浜名湖での水泳

第に内容のよくなったのが何よりうれしかった。学校生活の中で、自由に好きなものを食べられるという遠足の行事は、子供にとっては最大の喜びだった。一、二年生は細江公園が多かった。三、四年は天竜川へよく行ったものだ。でも、弁天島へは五、六年といっしょに行った人たちもあった。

昭和26年には、一年から六年まで浜松動物園という時もあり、昭和29年には、五、六年は豊橋の博覧会へ行ったものだ。

◎給食

最近の父兄の方では、子供に弁当を持たせて学校へやるのは、遠足ぐらいのものだろう。

給食には、賛否いろいろ意見はあると思われるが同じ物をみんなで食べるという、子供の意識の中で強い力をもっている「公平に」という点で、大きな安心感がある。

昔、左手で弁当箱をかこむようにかくして食べたり、隣の子のおかずをチラチラ横目で見ながら、優

越感や劣等感が入りまじった昼の時間は、楽しいながらも不安がつきまとったものだ。

昭和26年7月給食室ができて、9月から副食だけの給食が始まった。当番制でお手伝いに行ったことを思い出すでしょう。野菜などは各家庭から出せば……………と簡単に考えても、同じようなものばかり集っても困るし、量も多かったり少なかったり調理にも苦勞があった。

昭和37年1月24日からアメリカ輸入の脱脂粉乳、いわゆるミルクを飲むことになった。うまくないという評判は高かったが、それでも子供はよく飲んだ。

昭和37年4月17日完全給食になり、弁当箱よさよならというわけ。熱いミルクは置いたまま口の方をもっていったり、寒い冬教室でわけている中にさめてしまうというようなこともあるが、子供のカレー好きは10年前も今も変わらない。

◎水泳

体育の一部として海の経験も必要と、昭和30年8月4日都筑の海岸へ高学年だけが出かけた。その後同じ琴水の海岸や、館山寺や内山海岸など、自分たちの行った時のことを思い出してください。

昭和43年7月18日待望のプールが完成し、22日には盛大にプール開きが行われた。小淵や大せぎや新堤で泳いだ人たちには、うらやましい限り。

◎鼓笛隊

指揮者を先頭に、大太鼓、シンバル、中太鼓、小太鼓、ベルリラと並んで、あとからスベリオの大部



大規模編成となった現在の鼓笛隊

隊がダンダンカダンと行進するのを見たら、百年前井伊谷学校ができた頃の人は、きっと“宮さん宮さん………トコトンヤレナ”の明治維新を思い出すでしょうが、昭和の子供はそれとは関係なくさっそうとドライにパレードする。

昭和36年3月27日は練習の成果を、鼓笛行進で発表し、それ以来毎年、運動会や交通安全運動などに大いに活躍している。

(4) 新校舎落成

—井小の偉容なる—

本校の新校舎鉄筋3階建が完成したのは、昭和32年10月12日であり、この日、竣工式が盛大に実施された。建築総面積は、648.45坪で当時の建築の粋を集結して建設された素晴らしい建物である。当時の建築仕様書には概要次のように記されている。

工事概要

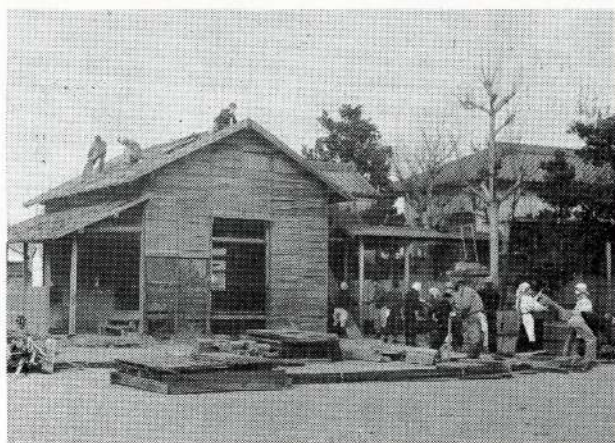
- 1 建物 鉄筋コンクリート造 3階建（玄関、下足室—平屋建）塔屋付
- 2 建築面積 延面積648.45坪，（鉄筋コンクリート647.20坪，木造1.25坪）
- 3 工事種別①鉄筋コンクリート3階建

1階	2階	3階	塔屋
231.262坪	202.675坪	202.675坪	10.588坪

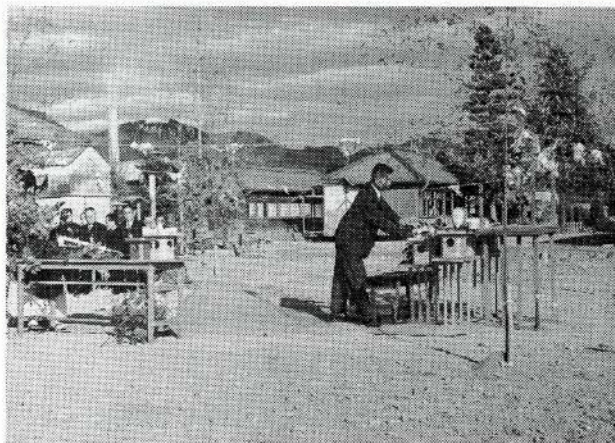
 ②木造平屋建屋根波型鉄板葺1.25坪
計 648.45坪
- 4 室数 普通教室 14教室
管理室（職員室，校長室，放送宿直室，保健室） 5室
各階 トイレ付

なお、このあと、昭和42年1月31日に鉄筋3階建特別教室，給食施設を中心とした増築工事も完成された。これによって内外共に引佐町の中心校としての偉容を誇る井伊谷小学校校舎建設工事が完成されたのである。当時の町管理者，教育長，PTAの方々等の苦

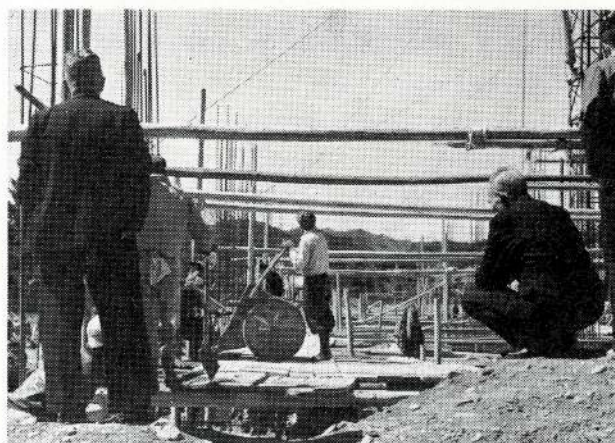
労は大変なものであったと拝聴している。



とりこわされる古い校舎



地鎮祭がおこなわれる



建築工事真最中のスナップ



だいたい出来上がってきた新校舎

(5) 開校百年われらの母校

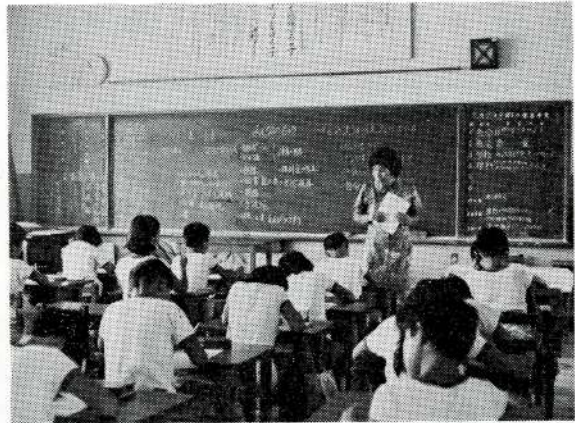
明治8年に開校されて以来、今年で（昭和49年）創立百年を迎えた。百年の伝統を守りつづける本校の活躍は、今まで、各章にわたって記述された通りである。今年度は、県教育委員会より研究指定をうけて、青少年赤十字活動の精神をとり入れた教育活動の研究に専念し、すばらしい成果を10月22日に発表しようと職員、児童共に一体となって教育実践に取り組んでいる。

現在の学区の状況は、住友セメント工場の進出にともしない活気のある町づくりの中に、将来の発展が大きく約束されている。



みんなで話し合う学級会活動

本校の現在における規模は、児童数 356名 職員数は、町職員を含めて22名である。12学級の教室と特別教室、5教室、他に管理室をもった鉄筋3階建の1棟



充実した教育施設の中での授業風景



全校で楽しむ七夕集会



児童集会で歯みがき訓練

と、郡内にも誇り得る給食施設、水泳プールと完備された施設の中で、次代の井伊谷地区を背負って立つ児童、いや次代の日本を背負う児童の教育に取り組んでいるのである。

なお、本校の明治5年以來の概要については、次ぎの年表、規模一覧表等を参照されたい。

この章を終るに当たり、井伊谷小学校のいよいよの発展を祈って止まない。

6. 井伊谷小学校沿革の概要

年号	年 月 日	事 項
明治	5.	学制発布せられ本学区は第2大学区11番中学区第176番小学区に編入される。
	6. 10	井伊谷村阿形井津治氏居宅を使用，公立小学金指学校井伊谷分校と称す。当時の生徒20名，教員2名で発足する。
	7. 5. 1	井伊谷村円通寺を使用する。
	8. 6	村立小学井伊谷学校と改称，独立校して認可される。
	9. 4	当時生徒の授業料はひとり1ヶ月平均1銭5厘を徴収した。
	13. 3	井伊谷村大手先に校舎2棟を新築し，業を始む，生徒100余名
	17. 2. 18	文部省より褒賞を下賜せられる。
	18. 7. 18	本校1等訓導内山清一郎氏，白岩学校へ大試験，立会のため出張する。 19年度より小野村が学区内に編入される。(22年まで)
	20. 4. 16	引佐郡南部小学校併合運動会開催せらる。
	20. 10. 8	暴風雨来襲のため臨時休校する。
	22. 4. 1	井伊谷村立井伊谷尋常小学校と称す。学区は井伊谷，三岳，花平，横尾，白岩とし，生徒400有余人となる。
	22. 3. 22	文部省視学官檜垣直古殿，県学務課長蜂屋定憲殿本校巡視のため来校
	23. 4. 1	授業料ひとり平均5銭4厘徴収
	24. 3. 7	校舎一棟を改築。落成式举行
	27. 10. 23	第4学年の生徒，修学旅行をなす(目的地東海道本線新居駅他)生徒33人
	35. 4. 10	井伊谷村立井伊谷尋常高等小学校と称す。高等科2年を併置す。
	37. 5. 2	農業補習学校を付設する。
	37. 10. 12	旧村役場を仮校舎に使用する。
	41. 7. 10	校舎2棟5教室を増築する。
	42. 4	村民校庭に桜，その他数十本を植樹す。
43. 5. 19	ハレー彗星，太陽面を通過。職員児童共に観察す。異常を更に認めず。	
大正	2. 3. 31	本校の児童就学及び出席の督励が認められ，県知事従四位勲三等笠井信一氏より褒賞金を受与
	7. 3. 10	軍事講話あり，浜松聯隊より今井少佐来校する。
	7. 7. 12	校舎落成式を举行。この日児童成績品を陳列し一般来観者の從覽に供せり。
	8. 2. 19	静岡師範学校生徒30名，本校を参観せり。
	8. 10. 23	午前9時より唱歌練習会を举行する。
	9. 2. 11	午前10時本県正庁に於いて教授訓育成績良好の故賞状を授与せらる。
	3. 10	陸軍記念日に付講話をなし，学級別に勇壮なる遊戯を行なう。
	5. 18	浜松聯隊区司令部員林少佐来校。本校高等科児童の為軍事講話をなされたり。
	11. 10. 30	学制頒布50年記念祝賀式举行
	12. 11. 22	野砲兵の馬(百頭馬あり)のために運動場を馬繋場となす。
	11. 29	高一，二児童修学旅行。名古屋方面へ一泊す。
	14. 12. 15	尋5以上の生徒をもって，井伊谷小年赤十字団を組織し本日発団式を挙ぐ。
	15. 2. 16	児童母姉会を開く。出席450名なり。
昭和	3. 10. 28	引佐農学校主催。郡下小学校児童競技会に参加し，高等科優勝旗を授与せらる。
	6. 6. 1	天皇陛下井伊谷宮に御親拝。職員，児童，井伊谷より谷津に通じる県道東側に整列，奉迎奉送す。

年号	年月日	事	項
昭和	5. 11. 6	本県主催体操練習会を本校々庭に開催。県より松山体育指導委員来会、指導講評ありたり。当日の参加校次の如し 井伊谷小、奥山小、伊平小、川名小等	
	6. 9. 29	本日午後2時より1時間、村内各道路交通量調査。高等科児童、全職員にて実施。	
	7. 3. 10	戦勝記念に付陸上運動会開催（校庭）	
	8. 4. 13	少年義勇団入団式举行	
	9. 20	少年義勇団奉仕作業、官幣中社前本通り除草	
	9. 3. 25	高2男、自転車旅行をなす。引卒者豊田訓導	
	4. 29	国旗掲揚塔完成。掲揚式を举行す。建武中興600年記念と校長刻印す。	
	12. 15	本日より奉安殿への最敬礼、国旗への最敬礼をラッパの合図により举行することとなす。	
	11. 7. 28	午前10時半角力場落成式举行す。	
	8 20	本日より月末まで黙働会、高2より尋3まで順次学校集合。毎朝7時半静座、労作（約1時間をなす）浜松師範学校より鯉坂教諭引卒して教生40名参観あり。	
	12. 5. 23	世界教育会議（東京にて開催）へ提出のため、本校教育一般を写真になす。	
	12. 11. 1	放課後、職員にて慰問袋60個製作する。（薬草取、栗拾い、古本、古屑等により慰問袋代金となす）	
	12. 14	南京陥落祝賀のための祝賀式、旗行列、提灯行列をなす。	
	13. 5. 14	職員室を武道場となす。	
	14. 9. 1	興亜奉公日挙式をなす。	
	10. 10	開校記念日を祝す。	
	12. 10	引佐郡有段者会主催武道大会にて団体試合、個人試合にて優秀な成績をおさめる。	
	2. 2	本日より明日まで出征軍人遺家族慰労展覧会、学芸会開催す。	
	15. 4. 15	楠公像、二宮尊徳像除幕を行う。	
	15. 4. 24	春季遠足举行す。尋1.2年は細江公園、3年以上は舞阪へ汐干狩。	
	2. 23	出征軍人遺家族、慰安映画会をなす。	
	15. 11. 10	午前10時30分より本村主催にて紀元2600年式典を本校々庭にて举行せり。	
	11. 11	紀元2600年記念行事として城山保存の事業進行したるをもって第1時に於いて全校頂上にて挙式をなす。	
	16. 12. 8	米国、英国に対して開戦の詔書祈願参拝を行なう。	
	17. 4. 16	軍隊へ供出のワラビを採集す。	
	4. 18	午後ワラビとりのため三岳山に登る。たまたま空襲警報発令さる。急ぎ児童引卒帰校す。	
	18. 4. 13	入学児童報告祭を井伊谷宮にて行なう。	
	8. 27	名古屋第三師団長賀陽宮殿下井伊谷村他二ヶ村の簡閲点呼のため御視察。	
	19. 1. 18	高2男谷津土地改良（あんきよ排水工事）工事に援助のため出動す。	
	19. 6. 15	児童全校風退治をなす。	
	8. 27	西遠地方事務所島山学務課長臨場の下に疎開児童歓迎式を午後3時より、東運動場に開会、馬鈴薯を蒸して接待す。	
	10. 24	校内体錬大会を開催す。成績良好なり。	
	20. 2. 21	中部第130部隊、新校舎転用230名入校する。	
	4. 14	東京都長谷戸国民学校児童の再疎開につき送別式を午前9時東運動場にて行なう。	
	4. 16	本日より2部の授業を始む。	
		午前中4年以下、午後5年以上とす。但し高等科は1、2年交代。朝より増産作業とす。	
	4. 19	鈴木師団長閣下赴任さる。	

年号	年月日	事	項
昭和	20. 6. 1	城山防空壕工事始む。	
	7. 25	御影及び勅語謄本を渋川国民学校奉安殿に奉還し奉る。	
	8. 15	大東亜戦争終結の詔書，天皇陛下御放送遊ばさる。	
	10. 3	御影，勅語謄本を渋川国民学校より奉還し奉る。	
	12. 8	児童用仮机の製作百個	
	21. 1. 16	進駐軍学校検閲。ホール軍曹外1名，通訳並びに警官1名同行。物置及び教科書集結場所を検閲さる。	
	21. 4. 10	衆議院選挙を式場教室にて行なう。	
	25. 5. 22	海人草服用，成岡視学，戸塚視学来校	
	25. 3. 10	中学校落成式，5年以上参列する。	
	7. 20	小・中合同PTA総会	
	12. 23	ピアノ購入	
	27. 11. 9	PTA甘藷の集荷をなす。	
	29. 7. 7	老朽校舎，測量並びに校舎平面図作成	
	32. 8. 9	町内対抗野球大会，井小×田小9:1で優勝する。	
	10. 12	新校舎落成式，展覧会，記念芸能大会あり。	
	34. 3. 5	校内相撲大会実施	
	38. 1. 28	新校舎南側に遊具施設工事をなす。	
	43. 7. 18	プール落成する。	
	44. 5. 19	少年赤十字登録式を実施	
	49. 2. 20	青少年青十字指定校として，中間発表会を開催	
	10. 22	青少年赤十字指定校として研究発表会を開催	
	11. 2	開校百年記念式典を挙行する。	

昭和初年の井伊谷小学校（山下修平氏撮影）

